

高齢者向け住まい紹介事業

提携施設は5千超え

介護体験を機に会社興す

増野佳範さん（37）が（株）We Care Japan（東京 都千代田区神田須田町一丁目14-1ヒューリック神田須田ビル3F 電03・4405・3626）を立ち上げたのは、2017年11月。事業内容は、高齢者の生活支援と住まい紹介事業である。増野さんが会社を興したきっかけは、昨年9月に亡

くなった郷里・福山の父親の介護体験だった。

増野さんは大学卒業後、外資系のIT企業で法人営業やマーケティングを経験。「自分の力を試したくて」、企業の海外進出を支援するベンチャーに転職。事業責任者としてやりがいっぱいの多忙な日々を送っていた矢先、還暦を前に父親が脳梗塞で倒れた。増野さんが29歳の時である。増野さんは一人っ子。母親は在宅介護で疲れ果て精神的に不安定になり、東京にいる増野さんに頻繁に電話が入った。父親の介護と同時に母親のサポートも必要となり、東京と福山を毎月往復する生活が始まった。「仕事の電話もバンバン入るし、実家には帰らなくてはならない



▷増野佳範＝1983年7月生まれ。（株）We Care Japan 社長。出身は神田町。井原高校を経て上智大学へ進学した。東京都が主催する、世界を変える若い起業家を輩出するスタートアップコンテスト「Tokyo Startup Gateway2017」で、セミファイナリストに選ばれた。趣味・特技は卓球とセーリング。

し、仕事と介護の両立は難しく、経済的、時間的、精神的にきびしい状況だった」と振り返る。「医療・介護・福祉などの現場のスタッフと話す機会が増え、そこに働いている人へのリスペクトが高まった。心の底から感謝した。しかし介

護業界は過度の人材不足。自分に何が出来るかを考え始めた」。そんな折、父親が入所する施設を探すことになった。高齢者の施設は種類も数多いが、どこに入れば良いのか見当がつかずに戸惑った。こういう経験を世の中に還元し、課題を

万里子の首都圏レポート ②8

本誌記者・小林万里子が東京に転居。首都圏で、備後及びその周辺地域にゆかりのあるヒト・モノ・コトを見つけてお届けします。読者が元気になる情報をキャッチしたいと思いますので、皆さんからも情報があれば、本誌までお寄せ下さい。

解決したいと増野さんは一念発起。「高齢者の住まい」に特化したサービスを事業の柱とし、2017年、起業、独立した。

「住まい」は重要な生活基盤のひとつで、雨風が防げて落ち着ける居宅の確保というのは究極の「福祉」とも言われている。特に高齢になってから、どこにどう住まうのかというのは大きな問題だ。「施設」を選択した時に心強いのが、（株）We Care Japanの「スマートシニア」という、高齢者向けの施設紹介サービスである。介護、福祉の国家資格者（ケアマネジャーや社

会福祉士など）がコンシェルジュとして高齢者に丁寧にヒアリングをし、その人に最適な施設探しを無料でサポートする。「高齢者施設」と言っても、それぞれに特徴がある。医療、食事、リハビリ、レクリエーションなど、そのどれかに特化している施設もあり、その人の価値観やライフスタイルに合ったところを探すことが大切。現在、同社と提携している施設は、一都三県及び一部の北関東エリア内でトータル5千を超えるというから驚きだ。提携施設のリサーチには「親をここに入所させたいかどうか」を軸にしていると話す。

ただ、良きそうに見えても施設は「住んでいる人」「働いているスタッフ」と「本人」との相性が大事。食事は？ スタッフの対応は？ リハビリ体制は？ など複数の項目にわたる質問を用意し、同社では「入居者に特化したリアルな声」を集め、「入居してみないと分からない」というリスクを避ける。ま

た、最新のIT技術を活用し、高齢者のプロフィールを集積して解析。こういう家族構成でこういう予算の人ならこの施設が最適、と言った風に、提案の質を上げる工夫も行っていく予定。さらに、高齢者からは入居に際し、自宅の売却や財産分与、葬儀や墓のことまで多様な相談が持ち込まれるので、同社では弁護士、行政書士、司法書士、税理士などとも連携している。住宅介護支援事業所のケアマネジャーやソーシャルワーカーが高齢者の入所に関して相談に来ることも多く、創業3年半も経たずに地域にすっかり周知され、信頼されていることが伺われる。

現在は首都圏での事業だが「いずれは福山に支社を出したい」という夢を増野さんは温めている。福山に支社が出来れば、広島県や岡山県などにも事業が広がるだろう。読者にとっても朗報となるはずで、増野さんのこれからを注視していきたいと思う。